

令和2年度

目黒日本大学中学校

入学試験問題

国語

試験時間 50分

注意事項

- 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- この問題冊子は、全13ページあります。
- 解答用紙は、問題冊子の中にはさんであります。試験開始の合図がありましたら、解答用紙を取り出してください。
- 解答はすべて解答用紙の決められた欄らんに記入してください。
- 試験中に質問がある場合は、手を挙げて監督者かんとくしゃに知らせてください。
- 試験終了後、監督者かんとくしゃの指示しよにしたがって問題冊子と解答用紙を提出してください。
- 問題冊子および解答用紙に、受験番号・氏名を記入してください。
- 解答は、特に指示がないかぎり、句読点や記号をふくむものとしします。

受験番号	氏名

一

次の各問いに答えなさい。

問 1 次のぼうせん部の漢字の読みを答えなさい。

- ① 定石通りに打つ。
- ② 声色を変える。
- ③ 朗らかな笑顔。

問 2 次のぼうせん部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 試合を観てコウフンする。
- ② 農業をイトナむ。
- ③ リチギに届け物をする。

二 次の記事を読んで、後の問いに答えなさい。

「内的成長」それは、私たちの「生きる意味の成長」である。そして「ワクワクすること」や「苦悩」、「違和感」への感性が、そのきつかけとなる。「内的成長」は私たちの感性、感受性の成長でもあるのだ。

しかし、その「きつかけ」が「内的成長」へとつながっていくかどうかには、もうひとつの重要な要素がある。それは「コミュニケーション」である。

「ワクワクすること」を育てていけるかどうかには、どんな人と付き合っているかが大切だということは先ほど述べた。自分のワクワクする話を語っても「お前はしょせん苦勞が足りないんだよ」と言われ、夢を語っても、「そんなのどうせ無理だよ」と言われ続けるのでは、人生の輝き^{かがや}からも夢からも見放されてしまう。もちろん、真の友人、先輩^{ばい}として、「ここがまだ足りない」とか「もっとこうしたところを努力すればいい」とか、心^①からのアドバイスを送ることがキツイ言葉になることはある。しかしそれは友人や後輩の「夢」や「輝き」を尊重すればこそのことであって、自分も不満だらけで生きているのだから、お前もそうでなければダメだというように、妬^{ねた}みから潰^{つぶ}しにかかるような人間たちに囲まれているのでは、かなりの生命力を持っていなければ、その場での「内的成長」はなかなか難しいだろう。

「苦悩」に直面し、その意味を深く探究することから自分の「生きる意味」を探し出すこと、それもなかなかひとりではできないことだ。苦悩する^②とき、私たちはとても孤独^{こど}だ。誰も自分の苦悩を分かってくれない、自分は見捨てられている、そんな思いにとらわれることも多い。

もちろん、そう^②いった孤独は大切ではある。ちよつと苦しいだけで「癒^{いや}して〜」と誰かに依存^いしてはなかなか苦しみ^③の深い意味とは直面できない。私にしても、苦しいときに誰^{だれ}にも会う気にならず、誰にも自分の心を打ち明けることができず、閉じこもりのように引きこもっていたこともあったし、その時期も自分にとっては大切だったのだと思う。しかし、そこから劇的に「生きる意味」が展開していったのは、孤独の極点でもう耐^たえられなくなり、友人たちに自分の胸の内^{むね}を吐露^{とろ}し始めてからのことだった。

「苦悩」を探究すること、それにはかなりのエネルギーが必要だ。そして、それは一朝一夕^③には成し遂げ^とられない。「苦悩」に向かい合い、それを「内的成長」へとつなげていくには、かなりの時間も必要なのだ。そして、そこを耐え抜き、「生きる意味」へと展開していくには、仲間が、そして仲間とのコミュニケーションが必要なのである。

私たちの多くは、人生に「苦悩」があることが問題なのだと思うている。 X 「苦悩」が起こらないようにとびくびくしながら生きている。

Y、問題なのは「苦悩」が生じるかどうかよりも、その「苦悩」が孤立化してしまうかどうかだ。もしあなたに「苦しみ」が生じても、もしその「苦しみ」を聞き届けてくれる仲間が、友人がいれば、もちろん苦しいことは苦しいにしても、あなたの「苦しみ」はそこで受け止められ、新たな「生きる意味」へと展開していく。そして、一番苦しい時期を何とか耐え抜き、その「苦しみ」を「内的成長」へと育てていくときへとつながっていくことができるのである。

前章で、私は「数字信仰」が私たちからコミュニケーションを奪ってしまうことを指摘した。あるものの意味が、数字という一見客観的な指標で、曖昧さもなく決まってしまうえば、私たちがお互いに意味を求めてコミュニケーションする必要はなくなってしまう。数字による意味づけは瞬時に決まるから効率的だ。しかし「生きる意味」は瞬時には決まらない。「生きる意味」を求めて、時間をかけながら、意味を探り出していく、意味を熟成させていく、そんなコミュニケーションは効率的ではないが、しかしそここそ生きることの豊かさがあるのだ。

人がワクワクすることをともに喜び、人が苦悩することをともに受けとめる。私たちの「内的成長」は、他者に支えられることから大きなAを得る。「内的成長」を支えるのは、まさにそうした「豊かな」コミュニケーションなのである。とすれば、私たちがいまこそ取り組むべきは、豊かなコミュニケーションを可能にする社会作りである。「内的成長」をもたらす新しいコミュニケーションの創造、それが私たちの課題となるのである。

(上田紀行『生きる意味』)

※妬み……嫉妬すること。

※吐露……心の中に思っていることを隠さず述べること。

※コミュニティー……地域社会。共同体。

問1 ぼうせん部①「心からのアドバイスを送ることがキツイ言葉になることはある」とあるが、理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 相手のことを尊重しつつも、純粹すいに現状を指摘することになるから。
- イ その言葉は、妬みから潰しにかかろうとする人間の言葉かもしれないから。
- ウ 心を折るようなことを言われると、周囲に対する不信感ばかり募つってしまうから。
- エ 相手の欠点を指摘することにより、自分の立場を守ることになるから。

問2 ぼうせん部②「そういった孤独は大切ではある」とあるが、理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 苦しみの原因は常に自分の内面にあり、他人がそれを理解することはできないので、誰かに自分の胸の内をさらけ出しても意味がないから。
- イ 人間は常に他人に支えられており、苦悩している時に自分ひとりが周りから見捨てられているのではないかという思いを抱いても、それは錯覚さくさくに過ぎないから。
- ウ 苦しみに直面した時でも誰にも依存せず自分の内面と向き合ってから、その苦しみを発信することで、「生きる意味」へと展開していくことができるから。
- エ まずは苦しみを他人に打ち明け、そこで得たアドバイスを元に自分と向き合ってから考えることで、癒しや成長へとつなげていくことができるから。

問3 ぼうせん部③「一朝一夕」の意味として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 並大抵の努力
- イ わずかな時間
- ウ 実力のない人物
- エ 中途半端ちゆうはんぱんな覚悟かくご

問4 X、Yに当てはまる言葉として最もふさわしい組み合わせを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|---|-----|---|-----|
| ア | X | ところが | Y | また | イ | X | つまり | Y | ただし |
| ウ | X | なぜなら | Y | たとえば | エ | X | だから | Y | しかし |

問5 Aに当てはまる言葉として最もふさわしいものを五字で本文中からぬき出しなさい。

問6 この文章の内容としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 他人の「夢」や「輝き」を尊重できる人と付き合えば、「ワクワクすること」を育てられる。

イ 「豊かな」コミュニケーションを可能にする新しい社会の創造が、私たちの課題である。

ウ 私たちの人生における問題は、「苦悩」をなくすことができるかどうかである。

エ 「内的成長」とは、「生きる意味の成長」であり、感性、感受性の成長でもある。

問7 本文を通して「コミュニケーション」という言葉が繰り返し出てくるが、筆者が重要視しているのはどのようなコミュニケーションか説明し

なさい。ただし、「時間」「意味」「効率的」という言葉を全て使い、文末が「コミュニケーション。」に続く形になるように書くこと。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

一人っ子の少年（ヨウくん）は、小学五年生。隣家に住む久美子ねえちゃんに幼い頃から可愛がられており、久美子ねえちゃんの恋人であるカンダさんとも打ち解けている。

春になると、カンダさんは日曜日のたびに久美子ねえちゃんの家に遊びに来た。もう結納の日取りを決めるところまで進んでいるんだと、母から聞いた。

少年とカンダさんもどんどん仲良くなった。久美子ねえちゃんの家を訪ねるときには、カンダさんは必ず少年とも遊んでくれた。「ヨウくんのこと、大好きなんだって」久美子ねえちゃんが教えてくれた。「もともと子どもが好きだし、ヨウくと遊んでると田舎にいる弟のことも思いだすんだって」

カンダさんは、スポーツはあまり得意ではなかった。キャッチボールをやってもサッカーをやっても、同級生の友だちのほうがずっとうまい。そのかわり、プラモデル作りを手伝ってもらうときには、少年はいつも目を大きく開いてカンダさんの指先を見つめた。少年が作るとどうしても接着剤がみ出してしまふ細かい部分も、カンダさんは魔法か手品のようにきれいに仕上げてくれる。

プラモデル作りに夢中になってしまい、久美子ねえちゃんが「なにやってるの？ もうごはんできて、みんな待ってるのよ」と迎えに来ることもしょっちゅうだった。そんなときにはいつも、カンダさんは少年に目配せして、いけねっ、と肩をすくめる。部屋を出るときにも、また今度な、と笑う。その「また今度」が、同じ日だったこともある。おじさんとお酒を飲んだあと、帰りに少年の家に寄って「レーダーのところは難しいから、俺がやっとしてやるよ」と作りかけの軍艦のプラモデルを箱から取り出し、一緒にいた久美子ねえちゃんが「用事があるから早く帰って、このことだったの？」とあきれかえると、えへへっ、といたずらっぽく笑う。

② カンダさんは、そういうひとだった。

そして、そういうひとは、おとなの世界ではあまりほめられないんだということ、五年生になった少年はうつすらと察していた。

「どうもねえ、おとなと会うより子どもと会ってるほうが楽しそうだななんてねえ……いくらいいひとだっていつても、あれじゃあちよっとなえ……」母はため息をついていた。

「久美子ちゃんもアレだな、だいじょうぶなのかなあ、どうも頼りないからなあ」父もなんとなくカンダさんのことを気に入っていない様子で、そ

れはきつと、久美子ねえちゃんの両親も同じなのだろう。

でも、少年にとつては、久美子ねえちゃんが歳の離れたお姉さんなら、カンダさんは歳の離れたお兄さんだった。大好きなお兄さんができた。それだけで、よかった。

五月の連休中に、久美子ねえちゃんに「明日、動物園に行くんだけど、ヨウくんも一緒に行かない？」と誘われた。

「カンダさんもいるの？」

「彼が言ったの、ヨウくんも誘おうって」

少年は、やったあ、と跳び上がって喜んだが、両親はいい顔をしなかった。「ほんとに久美子ちゃんがそう言ったんだな」と父は何度もAを押し、母はもつとしつこく「ほかに言いか言ってなかった？ それだけだった？」と訊いてきた。

「行っていいでしょ？」

両親は顔を見合わせ、父が黙ってうなずくと、母もやっと「いいわよ、二人の邪魔しないようにね」と言った。

動物園は楽しかった。

カンダさんも久美子ねえちゃんも、ここに笑って、動物の檻をひとつずつゆくりと時間をかけて巡っていった。

途中で手をつないだ。右手をカンダさんと、左手を久美子ねえちゃんと——五年生になってからは両親と手をつなぐことは一度もなかったが、カンダさんと久美子ねえちゃんとなら手をつないでも恥ずかしくなかった。

帰りの電車も、少年を真ん中にして三人並んで座った。電車の揺れに身を任せているうちに、少年はうたた寝をしてしまった。夢の中でカンダさんと久美子ねえちゃんの話し声が聞こえた。久美子ねえちゃんは怒った声で……違う、涙ぐんだ声でなにか言っていた。カンダさんの言葉は聞き取れなかったが、声の調子で、謝ったり言い訳をしたりしているんだ、と感じた。どうしたの？ と訊きたかったが、訊いてはいけないんだ、とも思った。そう思ったのも、夢の中のことだったのだろうか。

「ヨウくん、次降りるよ、駅だよ」と揺り起こされた。

久美子ねえちゃんは泣いていなかった。涙の名残もない。だが、少年の隣には、カンダさんではなく知らないおばさんが座っていた。

「カンダさんは？」

「帰った。途中だったの、降りる駅」

「……起こしてくればよかったのに」

幼い子どもがすねるように言うと、久美子ねえちゃんは「ごめんね」と笑った。泣き顔のような笑顔だった。

「でも……いいや、どうせ来週末また会えるもんね」と少年は言った。おそろおそろ、にならないように気をつけて。

久美子ねえちゃんはさつきと同じ顔で笑うだけで、なにも応えてはくれなかった。

連休が明けると、カンダさんが姿を見せない日曜日が増えてきた。カンダさんが帰ったあとの隣の家からおじさんと久美子ねえちゃんが言い争う声が聞こえてくるようにもなったし、隣のおばさんが夜中にわが家を訪ねて両親と長い時間話し込むこともあった。

それでも、カンダさんは、隣の家を訪ねたときには必ず少年の家にも寄った。父は居間にこもったままで、母もお茶を出さない。冷やかな空気の中、カンダさんは少年の部屋に入るとほっとしたように肩の力を抜いて、「プラモ、どこまで進んだ？」と笑う。少年は作りかけのプラモデルを箱から出して、「ここまで」と言う。言葉を交わすのは、それだけだった。

カンダさんは黙々とプラモデルを作りつづけた。最初は難しいところを手伝うだけのはずだったのに、少年には手出しさせず、話しかけてもこないで、一心に指を動かして軍艦や戦車を作りつづけた。

久美子ねえちゃんは、もう、カンダさんを迎えには来なかった。

結婚の話がこわれた。

カンダさんの実家が反対したせいだ、と少年は両親から聞いた。

カンダさんの実家は東京から遠く離れた町で商売を営んでいて、長男のカンダさんはいずれは帰郷して家業を継ぐ——プロポーズしたときには「家のほうは弟に任せるから」と言っていたのに、実家の猛反対と説得を受けて、決心が揺らいだ。久美子ねえちゃんはいまの仕事を辞めるつもりも東京から離れるつもりもなかった。板挟みになったカンダさんは、優柔不断な態度をとりつづけ、結論を先延ばしにしたすえに、結局、久美子ねえちゃんではなく実家のほうを選んだ。

「もう遊びに来ないの？」

少年が訊くと、母は「あたりまえでしょ、顔なんて出せないわよ」と吐き捨てるように言った。「あんただってそう思うでしょう？ 久美子ちゃんは裏切られたのよ、あの男に、そんなの許せないでしょう？」

〔B〕 入りして間もない頃——金曜日から降りつづいていた雨がようやくあがった日曜日の夕方、友だちの家で遊んできた少年が帰り道に公園の脇を通りかかったら、背広姿のカンダさんがいた。

いつものように「おつす」と照れくさそうに挨拶したカンダさんは、「ここで待ってたら会えるんじゃないかなって」と笑った。

少年は笑い返さない。頬をこわばらせたまま、カンダさんから顔をそむけて、「おねえちゃんちに行つたの？」と訊いた。

「行つたけど、会えなかった。ヨウくんの家にも寄つただけだ、おばさんに怒られちゃったよ」

「……ふうん」

「もう来ないと思うんだ、ここには。だからヨウくんにも、さよならって言いたくて」

⑥ 少年は公園の植え込みのアジサイをじつと、にらむように見つめる。

「いままでありがとう」

カンダさんの差し出す右手が視界の隅をちらりとよぎったが、少年は顔を向けず、バイバイ、と口を小さく動かすだけだった。

カンダさんもすぐに手をひっこめて、「〔C〕」と訊いた。

「壊した」

少年はそつげなく言つて、頭の中でアジサイの花びらの数をかぞえていった。

カンダさんは黙つて公園を出て行つた。

花びらを三十まで数えたところで、少年はその場にしゃがみ込み、雨で濡れた地面を手で掻いて、泥玉をつくつた。

カンダさんの背中めがけて、泥玉を放つた。

当たらなかつた。泥玉はカンダさんの足元ではじけてしまった。

振り向いたカンダさんは怒らなかつた。そのかわり、雪合戦のときのように逃げてくれなかつた。じゃあな、と笑つて、また歩きだして、ほどなく背中が夕闇に消えた。

久美子ねえちゃんは、二年後に別の男のひとと結婚をした。今度のひとはおじさんやおばさんにすぐに気に入られて、少年の両親も「久美子ちゃんもこれで幸せになれるよ」と喜んでいた。でも、そのひとは、少年の歳の離れたお兄さんにはならなかつた。少年はもう中学生で、久美子ねえちゃんに会つても、「こんにちは」しか言わなくなつていた。

結婚式の前の日に、久美子ねえちゃんがお別れの挨拶に来た。お祝いのケーキを用意していた両親は、久美子ねえちゃんを居間に通して昔ばなしを始めたが、少年は最初に玄関先で挨拶をしただけで、あとはずっと自分の部屋にこもっていた。

本棚に、小学生の頃にしたプラモデルがいくつも飾ってある。そのうちのひとつ——カンダさんに手伝ってもらった戦艦を本棚から下ろした。小学五年生の頃には魔法のように美しく思えた仕上がりは、あらためてじっくり見つめると、接着剤が意外と外にはみ出していて、たいしたことはなかった。

玄関のほうから話し声が聞こえた。母に「久美子ちゃん、帰っちゃうわよお」と呼ばれたが、聞こえなかったふりをして、戦艦のプラモデルを見つめつづけた。

お兄さんになりそこねたひとのことを、ひさしぶりに思いだした。きつと、あのひとも久美子ねえちゃんの結婚を喜んでくれているだろう——ふつと笑うカンダさんの顔がくつきりと浮かんだ。

少年は戦艦を手にとって、持ち上げた。大砲はついていてもきつと敵にはからきし弱いはずの戦艦は、虚空の大海原をのんびりと、D進んでいった。

(重松清『カンダさん』)

※結納……婚約の証として婿・嫁の両方が互いに金銭や品物を取りかわすこと。

※背広……スーツ。

問1 ぼうせん部①「いたずらっぽく」とはどのような様子か。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 気持ちをおさえている様子
 イ 悪びれず開き直っている様子
 ウ 茶目つ気があり無邪気な様子
 エ わざとらしく大げさな様子

問2 ぼうせん部②「カンダさんは、そういうひとだった」とあるが、「少年の両親」と「少年」はカンダさんのことをどう思っているか。それぞれの違いを明らかにして説明しなさい。

問3 Aに当てはまる言葉を漢字一字で答えなさい。

問4 ぼうせん部③「にこにこ」とあるが、このような表現技法を何と言うか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 比喩ゆ イ 擬人法ぎ ウ 擬態語たい エ 擬音語

問5 ぼうせん部④「さつきと同じ顔」とあるが、どのような顔か。本文中からぬき出しなさい。

問6 ぼうせん部⑤「優柔不断な態度」とあるが、どのような態度か。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 大事な決断を人任せにして、自分の考えを全く持っていない態度。
 イ 自分の好き勝手に振舞ふるまって、周りの人を巻き込んで混乱させる態度。
 ウ 責任を他人に押し付けて、自分がやったことをなかつたことにする態度。
 エ 物事の判断を決めかねて、はつきりと決心することができない態度。

問7 Bには季節を表す言葉が入る。漢字二字で答えなさい。

問 8 ぼうせん部⑥「少年は公園の植え込みのアジサイをじつと、にらむように見つめる」とあるが、このときの「少年の気持ち」としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 久美子ねえちゃんを裏切ったカンダさんを許せず、責める気持ち。
- イ カンダさんを心から慕っていたのに、もう会えないことを悲しむ気持ち。
- ウ 久しぶりにカンダさんに会って何を話せばよいかわからず、照れくさい気持ち。
- エ 大人の事情をうまく飲み込むことができず、納得できない気持ち。

問 9 C に当てはまる言葉として最もふさわしいものを本文中からぬき出しなさい。

問 10 D に当てはまる言葉として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 勇ましく
- イ 頼りなく
- ウ 美しく
- エ 悲しく

四

次の各問いに答えなさい。

問1 ノーベル文学賞受賞者を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 芥川龍之介 イ 樋口一葉 ウ 川端康成 エ 正岡子規

問2 四字熟語としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 絶体絶命 イ 油断対敵 ウ 五里霧中 エ 針小棒大

問3 ぼうせん部の関係と同じものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

・コンクールで 入選した 作品を、両親や祖母に見せた。

ア マラソンをしたあとは、とても すがすがしい ので好きだ。

イ ぼくたちは おっかなびつくり 乗って みる。

ウ 闇の中から 静かに ひっそりと 波の音がする。

エ 兄貴分の ダイジロウが 言いました。

以下余白

—